

# 令和5年度 事業報告書

## I はじめに

令和5年度の我が国の経済は、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という）が5類感染症に移行され、政府が一律に日常における基本的感染対策を求めるとともに、景気の自律的な循環を制約してきた要因は解消されました。こうした中、30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済には前向きな動きがみられました。また、GDPは名目・実質ともに過去最大水準となり、業況や経常利益にみられるように企業部門は好調でした。

個人消費に関しては、消費者マインドはコロナ禍後の経済正常化の本格化への期待もあり、令和5年春頃から持ち直してきましたが、秋頃には物価上昇の影響から一時的に持ち直しに足踏みがみられました。食料品等の物価上昇は特に低所得者層への影響が大きく、消費者が物価動向への警戒感を高めていたとみられますが、食料品の値上げ一服によって消費者物価の上昇が緩やかになり、令和5年末には消費者マインドは再び持ち直しました。

雇用情勢については、改善の動きが続きました。完全失業率はコロナ禍からの経済の回復に伴い、令和3年・令和4年と緩やかな低下傾向を続けた後、令和5年に入ってから自己都合による離職や新たな求職活動の増加により上昇するなど、やや振れのある動きとなりましたが、コロナ禍前に近い水準で推移しました。

公益社団法人として13年目を迎えた中野区シルバー人材センター（以下「センター」という）は、事業の基軸である請負事業と平成29年度から開始したシルバー派遣事業に取り組みました。センターの業務はお客様宅や各施設等での対面による就業機会が占める割合が多いことから、ここ数年は感染症の影響により契約実績は伸び悩みましたが、その状況も徐々に回復傾向になり、請負事業については公共・民間・家庭・自主事業すべての分類において契約金額が増加し、令和5年度事業計画の目標額6億5千万円を大きく上回ることができました。

シルバー派遣事業については7年目を迎えました。令和5年度は保育補助業務20件、受付事務業務1件の合計21件の契約でスタートし、派遣事業において初の単発業務や新たな職種の飲食店での調理補助業務等を含む年間総契約数27件となりましたが、昨年度を上回る実績をあげることができませんでした。

請負事業の契約金額は6億6千843万円余で、昨年度比8.1%増となりました。一方、シルバー派遣事業の契約金額は3千536万円余で、昨年度比4.8%減となりました。

この結果を受け、請負事業とシルバー派遣事業の合計契約金額は7億380万円余で、昨年度比7.3%増となり、令和元年度以来の7億円を上回る実績をあげることができました。これは、猛暑や厳寒においても就業を継続していただきました会員皆様のご協力・ご尽力によるものと改めて感謝申し上げます。

受託件数〔請負事業のみ〕につきましては、昨年度より316件少ない11,702件で2.6%減となり、就業状況〔請負事業のみ〕については、1,445人の会員に対し、1,059人（延べ38,345人）が就業し、就業率は73.3%となりました。

会員の入退会については、年間入会者数は204人で昨年度に比べ15人減、年間退会者

数は166人で昨年度より1人減となり、結果的に令和5年度末会員数は1,445人で前年度比38人(2.7%)増となりました。なお、退会の主な理由は病気・加齢及び会費未納によるものでした。

当センターとしては、組織の根幹ともいえる会員が年々減少傾向にあったことから、会員の増強及び受注拡大を目的に令和3年度・4年度に引き続き、バスラッピング広告や区内全郵便局でのポスター掲示、チラシの新聞折込み等、さらにセンターを多くの方々に認知してもらうためPRを実施しました。他にも、センターに未入会の方々を対象とした「これからシルバー応援フェスタ」への参加、クリーンキャンペーンの実施などPR及び地域貢献に努めました。

例年、地域への文化的貢献及びセンターのPRを目的とした「シルバーまつり」(武蔵野音楽大学の協力によるコンサート)を開催し、その心地よい調べに来場者からは「声楽が心地よく耳に入り、生の声に勇気をもらいました」「時代と共に生きてきた曲が流れ、思わず口ずさみました」など感謝の言葉をいただきました。

また、中野区主催「なかのエコフェア2023」に参加し、センターのPRに努めました。

センターにとって会員増強が喫緊の課題であるものの、ここ数年は感染症の影響によりコロナ前に比べPRの機会が減少傾向にありました。「なかの区報」や区内関係団体の会報等への広告掲載、新聞折込み広告などを中心にPRに努めてきましたが、イベント等への参加による現地でのPR活動にも積極的に努めました。

なお、総務省は令和3年度から、高齢者等が身近な場所で身近な人からデジタル活用について学ぶことができる講習会等を推進する「デジタル活用支援推進事業」を開始しています。当センターも総務省の主旨に基づき、昨年度同様に令和5年度「スマートフォン講習会」の開催を申請し採択されました。令和5年10月から令和6年1月までの間、南部・北部・江古田の各分室で開催し、合計104名の受講者が参加されました。講習会は、総務省指定団体の研修を受けて合格した講師15名の会員と、講習会を補助するアシスタント4名の会員が担当し実施しました。この事業は地域の高齢者等にデジタル活用の機会を提供できる重要な事業と捉えています。

重点事業である家事援助・子育て支援・福祉サービス事業については、引き続き区内をブロックに分けて会員コーディネーターを配置することで、地域の多様なニーズにきめ細かく対応するよう努めました。

また、平成29年4月より本格実施している「介護予防・生活支援サービス事業」は7年目を迎え、年間の合計契約実績は18件でした。少ない件数ながらも、要支援対象に該当する区民の皆様のお役に立つことができました。

家事援助・子育て支援・福祉サービス事業の全体的な実績としては、年度当初の注文件数は伸び悩みましたが、年度の後半からは件数も増えてきました。事務局や家事援助コーディネーターが会員と綿密な連絡・調整を行い、迅速に新規受注や既存契約のお客様対応に努めました。福祉サービス事業において規模の大きい契約がお客様都合により終了となったことから、昨年度比で14.2%減の4千86万円余の実績となりました。

一方、単発的な作業を担う「暮らしのサポート隊」は、アパート等の空き部屋清掃のほか、植木の水遣り・荷物整理・片付けや粗大ゴミの搬出など多岐にわたる様々な注文に対して、迅速な対応と丁寧な仕事に努めた結果、昨年度比で20.0%増の1千22万円余の実績となりました。

## II 事業推進の概要

令和5年度においては感染症の影響や物価の高騰など、センターを取り巻く環境は依然として厳しい状況でした。その中で、社会参加の意欲ある健康な高齢者に対し、地域社会と連携を保ちながら、その希望・知識及び経験に応じた就業ならびに、社会奉仕等の活動機会を通じ活力ある地域社会づくりに寄与するため、次の基本方針のもと事業を実施しました。

- (1) 会員の入会促進、就業を通じた社会参加と生きがいづくりの推進
- (2) 会員に適した就業先の開拓・確保
- (3) 会員の就業についての知識・技能向上のための講習等の実施
- (4) 法令等遵守した適正就業の維持
- (5) 安全就業の啓発・指導・研修等を徹底し、会員の健康維持・増進を支援
- (6) 社会奉仕活動の推進
- (7) 理事会を中心とした組織運営体制の充実・財政の安定化

## III 事業実施報告

高齢者の豊かな経験と知識を生かした質の高いサービスの提供に努めるとともに、区民の暮らしに身近な就業を通じて地域社会に貢献するなど、「自主・自立」「共働・共助」の理念に基づき、次の事業を実施しました。

### 1 事業実績〔定款第4条1号事業〕

#### 【請負事業】

① 事業実績	668,433,103円
② 就業延人員	141,478人日
③ 受託件数	11,702件

#### 【シルバー派遣事業】

① 事業実績	35,367,196円
② 就業延人員	7,027人日
③ 受託件数	235件

#### 【請負事業とシルバー派遣事業の合計】

① 事業実績	703,800,299円
② 就業延人員	148,505人日
③ 受託件数	11,937件

### 2 広報・宣伝活動の推進〔定款第4条1号事業〕

#### (1) 会員の動態について

① 令和5年度末会員数	1,445人
② 入退会者数	入会者 204人 / 退会者 166人

#### (2) 事業の広報・宣伝活動の推進

- ① センターの活動を幅広く掲載した機関誌を発行し、会員及び関係方面に配布して事業のPRに努めました。

◇機関誌「シルバーなかの」発行（年4回）

- ・第155号（4月30日号）
- ・第156号（7月31日号）
- ・第157号（10月31日号）
- ・第158号（1月15日号）

◇機関誌「シルバー速報」発行（年8回）

- ・第387号（5月31日号）
- ・第388号（6月30日号）
- ・第389号（8月31日号）
- ・第390号（9月30日号）
- ・第391号（11月30日号）
- ・第392号（12月31日号）
- ・第393号（2月29日号）
- ・第394号（3月31日号）

- ② センターのホームページを有効に活用して、幅広い世代の方々に事業内容等の情報を発信し、会員の入会促進及び受注の拡大を図りました。  
ホームページ内にラッピングバスや会員の笑顔の画像などを掲載することにより、センターへの興味・関心が高まるよう努めました。
- ③ 感染症の影響により令和4年度は見合わせたセンターPRチラシの各戸配布を、75名の会員の協力により実施しました。令和6年1月～3月にかけて会員増強及び就業開拓を目的として合計60,876枚を配布し、センターPRに努めました。
- ④ 会員増強を目的として、11月にセンターの北部分室において、出張形式による入会登録説明会を開催しました。事前に区内北部地域の新聞購読世帯を対象に、出張入会登録説明会の開催案内チラシ8,550枚の折込広告及びお知らせ版100か所への掲示により周知しました。その後、参加者15名のうち10名が入会しました。
- ⑤ 令和5年9月及び令和6年1月に会員増強を目的として、区内335か所のお知らせ板に会員募集のポスターを掲示し、会員の加入促進に努めました。
- ⑥ 就業や各種会議を通じて事業の周知を図り、会員自身の口コミ等によるPR活動により、受注の拡大・会員の加入促進に努めました。
- ⑦ 区民を対象に「パソコン・スマホ講習会（無料）」を年間で26回開催し、センター事業のPRに努めました。
- ⑧ 中野区の発行する「生涯学習・スポーツガイドブック2023」に記事（講習会、各種講座）を掲載し、センター事業のPRに努めました。
- ⑨ 令和5年7月に大手化粧品メーカーの協力により「心、晴れ晴れ 簡単メイク講座」を開催しました。当日は一般区民19名が参加し、女性会員の入会促進に努めました。
- ⑩ 令和5年11月に東京しごと財団と第3ブロックシルバー人材センターの共催イベント「これからシルバー応援フェスタ」を板橋区立グリーンホールで開催しました。当日は63名の会員でない一般の方々が来場し、新規会員の獲得及びセンターのPRに努めました。
- ⑪ 中野区役所1階ロビーに設置されている自治体情報案内図（シティナビタ）にセンター広告を掲載し、センター事業のPRに努めました。
- ⑫ 令和5年4月～令和6年3月に発行された「なかの区報」にセンターの会員募集広告を有料で掲載し（計22回）、新規会員の獲得に努めました。
- ⑬ 郵便局の窓口用封筒にセンターの広告を掲載し、PRに努めました。
- ⑭ 中野区友愛クラブ連合会の会報に、センターの広告を有料で掲載し（7月・2月）、PRに努めました。

- ⑮ 中野区教育振興会の会報に、会員募集広告を有料で掲載し(4月)PRに努めました。
- ⑯ 高齢者の利用も多いことから、中野区内28か所の郵便局にB2ポスターを2枚ずつ(本局のみ10枚)掲示しPRに努めました。
- ⑰ 関東バス2台・京王バス1台の計3台に、チラシやポスターと統一したセンターPR用のデザインをラッピングし、区内各所を走行することにより、各種PRとの相乗効果を期待したPRに努めました。
- ⑱ 令和5年10月から、高円寺駅から白鷺地区まで運行する「中野区実証運行車両」の後方扉にラッピングを施し、車内にはポスター掲示及びセンターチラシの設置など、車両一台をセンター広告で独占した状態で運行することで、センターのPRに努めました。
- ⑲ 令和5年10月から鷺宮・野方・江古田・東部・南中野、計5か所の地域事務所内有料広告スペースに大判のポスターを掲示し、センターPR及び会員の入会促進に努めました。
- ⑳ 令和5年4月から令和6年2月にかけて新聞折込み広告を実施し(計20回)、センターPRを積極的に行いました。折込みチラシを見てセンターに連絡をいただくことが多く、とても有効なPR媒体となっています。
- ㉑ センター事務局玄関横の掲示板を統一したPRデザインに一新し、センターPRに努めました。
- ㉒ 令和5年9月に「第11回シルバーまつり」を開催し、センターのPRに努めました。当日は、武蔵野音楽大学の卒業生により「秋風はこぼ 音の便り」と題して、素晴らしい演奏と声楽が奏でられ、来場者385名から盛大な拍手をいただきました。また、今回も来場者へのアンケート調査を実施(回収率75%)しました。「いつも楽しみにしています」「生演奏が心に響き、歌声も素晴らしかった」「選曲がよかった」など、嬉しい感想をいただきました。
- ㉓ 令和5年11月に中野区主催の「なかのエコフェア2023」に参加しました。区の発表ではイベント全体の来場者数は2,400名で、センターのテントにも多くの親子連れに来ていただき、子ども向けの景品が当たる輪投げゲーム等を通じて、センター事業のPRに努めました。
- ㉔ 令和5年5月から7月にかけて、暮らしのサポート隊に特化したチラシをサポート隊の新人会員の協力により約13,800枚配布し、センターPR及び就業開拓に努めました。
- ㉕ 令和6年3月からはセンターとして初めてリスティング広告(インターネット広告で、検索結果に連動して表示される広告)を開始し、デジタル的な部分においても積極的にPRに努めました。
- ㉖ 令和6年3月、「東京マラソンランナー応援イベント2024」の会場にて、来場者案内のボランティア活動に7名の会員が参加し、センターPRに努めました。

### 3 しごとの開拓と提供〔定款第4条1号事業〕

#### (1) 就業確保の取組み

- ① 一般家庭・官公庁に対し、センター事業のPR活動を行い、就業機会の開拓を行いました。
- ② センターの受託可能な仕事を、わかりやすくセンターのホームページ等で情報提供するとともに、一般家庭を中心にチラシやリーフレット等を配布し受注の開拓に努

めました。

- ③ 新規開設予定の認可保育園に派遣事業のPR活動を行い、認可保育園等での保育補助業務等の受注を目的に、就業機会の開拓に努めました。
- ④ 「シルバー速報」「シルバーなかの」に仕事情報を掲載するとともに、ホームページの活用等により仕事情報の共有化と就業の促進を図りました。
- ⑤ 就業に関する情報収集のため会員懇談会を開催しました。(14班×2回)  
◇第1回 令和5年6月2日～6月30日(218名出席)  
◇第2回 令和5年11月13日～11月29日(214名出席)

## (2) 家庭・子育て事業の推進

- ① 家事援助・子育て支援・福祉サービス事業推進のため、地域の関係機関・団体と連携を図り、それぞれのニーズに沿ったきめ細やかなサービスの提供に努めました。
- ② 中野区内をブロックに分け、それぞれに会員コーディネーターを配置し、迅速で丁寧な受注対応を目指しました。また、会員コーディネーターを中心に懇談会を開催し、会員同士の信頼を深め、事業の拡大に努めました。
- ③ 子育て支援サービスでは、既存の注文もお子様の成長とともに契約終了となるものや、新規受注もお客様の事情でキャンセルになることが多く、受注件数及び実績は減少しましたが、お客様満足度の高いサービスとなっています。
- ④ 『やさしさと笑顔で暮らしのお手伝い』のスローガンのもとに、センターらしいきめ細やかなサービスの提供に努めました。また、就業会員に「就業ノート」を配付し、お客様とのコミュニケーション等に活用することにより、仕事を円滑に進めることができました。
- ⑤ コロナ禍以降中止していた「家事援助就業会員必修研修」を再開し、2日間で64名の会員が参加しました。この研修は、就業において厳守すべき事項を会員に対し周知・徹底を図るとともに、日頃、個々に就業している会員が仲間意識や一体感を持つことで、就業への活力や励みとなることを目的として開催しています。
- ⑥ 例年、良質なサービスの提供を目的に実施している、家事援助・子育て支援・福祉サービスに関する研修として、リモート形式で中野区社会福祉協議会主催の高齢者支援サービス担い手養成講座に家事援助・子育て支援就業会員が参加しました。
- ⑦ 介護保険制度の改正に伴い、平成29年4月から「介護予防・生活支援サービス事業」が本格実施され、令和5年度は18件の実績で、その内4件が新規の依頼でした。引き続き区役所・地域包括支援センターとの連携を図り、新規利用の受注に努めます。
- ⑧ 「一人KY(危険予知)カード」を全就業会員に配付、また研修等の機会をとらえ、傷害・賠償事故の注意喚起をすることで事故件数の減少に努めました。

## (3) 職群班活動の充実と人材育成について

職群班活動については、仕事別グループの組織化を推進するとともに、職群班会議や研修等を開催し、会員の技能のレベルアップを図り、サービスの質的向上を目指しました。

## (4) 暮らしのサポート隊事業の推進

- ① 暮らしのサポート隊会員の清掃作業の技能向上を目的とし、新たに就業を希望した会員に作業現場での実践的な研修を実施しました。ベテラン会員と同行し、作業の準備・進め方・注意点等を実際に体験することによる意識・技能の向上を図りました。また、東京しごと財団主催の研修等への参加も積極的に促しました。

- ② 会員の安全就業を目的に、就業にあたり注意すべき確認事項を記した「一人KYカード（就業前/就業中）」を作成し、会員に配付することで安全就業への意識向上を図りました。また、就業会員の危険リスクを考慮し、受注時の安全基準を見直しました。
- ③ 新人会員の定着促進のための働きかけとして、チラシの配布作業を提供しました。新人会員の配布作業は、暮らしのサポート隊の就業開拓となり、就業に結びつくことも期待しています。

(5) 自主事業の拡充

多くの講座・クラスにおいて感染症の影響はほぼなくなり、昨年度よりは安定した運営となりました。

また、自転車リサイクル事業は中野駅周辺の再開発に伴い作業所が一時閉鎖となりましたが、区の協力により旧沼袋小学校にて令和5年8月に事業を再開し、翌9月には販売を再開することができました。

このような状況の中、自主事業全体の実績額は1千76万円余となり、昨年度比で7.1%上回る結果となりました。

(6) 事務系職種の仕事拡充

会員の希望、保有する資格・能力・技術等を踏まえた上で、公共施設の管理や事務系職種の開拓に努めました。事務系の就業拡大は厳しい分野ではありますが、機会を逃すことなく、シルバー派遣による就業も含め、引き続き公共施設の受付業務などの事務系職種を受注できるよう努めます。

(7) 就業機会の提供

① 令和5年度の就業機会提供結果

【請負事業】

年 度	年度末 会員数	就業実人員	就業率	受託件数	就業延日数	契約金額
令和5年度	1,445人	1,059人	73.3%	11,702件	141,478日	668,433,103円
令和4年度	1,407人	1,049人	74.6%	12,018件	134,327日	618,617,225円
増・減(△)	38人	10人	△1.3%	△316件	7,151日	49,815,878円

【シルバー派遣事業】

年 度	年度末 派遣登録会員数	就業実人員	就業率	受注件数	就業延日数	契約金額
令和5年度	125人	94人	75.2%	54件	7,027日	35,367,196円
令和4年度	94人	91人	96.8%	41件	8,162日	37,161,489円
増・減(△)	31人	3人	△21.6%	13件	△1,135日	△1,794,293円

② 自主事業の実施状況

会員の知識や能力を生かすための自主事業を積極的に実施しました。

ア. 自転車リサイクル事業については、中野駅周辺の再開発に伴い「中野四季の都市

（まち）」での販売は令和4年7月までとなり、令和5年9月からは旧沼袋小学校に販売会場を変更して再開しました。令和5年度の販売実績は、年度途中からの販売及びリサイクルの材料となる自転車の確保が困難な状況ではありましたが、180台（昨年度比55台増）販売することができました。

#### イ.各種教室（講座）事業

講座名	対象	会場	受講者数
学習教室	小・中学生 (小学生3~6年生/中学生1~3年生)	南部・北部分室	11人
暮らしの書道	社会人	南部・北部分室	6人
英会話教室	社会人	南部・北部・江古田分室	90人
万葉集講座	社会人	北部分室	23人
パソコン・スマホ教室	社会人	南部・北部・江古田分室	501人

#### 4 就業相談と各種研修の充実〔定款第4条2号及び4号事業〕

##### (1) 就業相談の充実

事務局内において、来所者（会員及び区民）に対し就業相談を随時実施しました。また、会員懇談会の際にも就業相談を適宜実施しました。

##### (2) 新規会員の登録と研修の充実

- ① 入会登録説明会の1回あたりの参加人数を感染症が蔓延していた時期は8名としていましたが、令和5年度は12名に拡大し開催しました。説明会への参加希望者が定員を超えた場合には、入会希望者の気持ちがセンターから離れないように説明会の回数を増やして対応しました。
- ② 入会登録時に、センター事業の特色や仕事内容、シルバー事業がサービス業であることを前提として、就業時の仕事態度や接客マナー、報告書の書き方等の説明を行うとともに、適正就業や地域班活動への参加などに役立つよう、入会相談の充実を図りました。
- ③ 入会登録時及び会員懇談会等の際に、仕事に対する知識とセンター会員としての意識啓発をはじめ、仲間づくりや社会奉仕活動への参加を高めるための導入研修を実施しました。

《新入会員研修》 出席者数 331人 / 登録者数 204人

◇月4回開催 令和5年4月、令和6年1月

◇月3回開催 令和5年5月～7月、9月～12月、令和6年2月・3月

◇月2回開催 令和5年8月

※11月（2回）センター北部分室 開催

##### (3) 接客術向上及び各種研修・講習

###### ア.自主研修・講習

\* ( ) 内は実施回数

###### ①初心者向けパソコン・スマホ講習会

(区民対象) 4・8・11・12・1月(26回) 180名参加

###### ②総務省デジタル推進事業

(区民対象) 10・11・12・1月(12回) 104名参加

###### ③暮らしのサポート隊研修（高圧洗浄掛け）

4月(1回) 2名参加

###### ④植木班技能向上研修

5・3月(2回) 35名参加

⑤除草班新人研修	4・6月(2回)	6名参加
⑥暮らしのサポート隊研修(エアコン清掃)	8月(1回)	1名参加
⑦暮らしのサポート隊研修(床面清掃)	8月(1回)	3名参加
⑧暮らしのサポート隊研修(窓ガラス・網戸等)	11月(1回)	3名参加
⑨派遣就業会員講習会(フレイル予防)	12月(1回)	21名参加
⑩暮らしのサポート隊研修(エアコン清掃)	1月(1回)	1名参加
⑪暮らしのサポート隊研修(トイレ・洗面台等)	3月(1回)	5名参加
⑫家事援助サービス就業会員必修研修	3月(1回)	64名参加
イ.東京しごと財団主催の研修・講習		
①生活支援サービス研修(第1回)	5月(1回)	2名参加
②家事援助サービス基本研修(第1回)	6月(1回)	5名参加
③生活支援サービス研修(第2回)	6・7月(1回)	1名参加
④襖・障子の張替え	6・7月(1回)	1名参加
⑤新任安全管理委員勉強会	7月(1回)	2名参加
⑥パソコンインストラクター養成	7月(1回)	1名参加
⑦新任理事研修	8月(1回)	3名参加
⑧ハウスクリーニングⅠ	9月(1回)	2名参加
⑨ハウスクリーニングⅡ(第2回)	9月(1回)	2名参加
⑩ハウスクリーニングⅢ(第2回)	10月(1回)	1名参加
⑪役員研修「経営管理」	11月(1回)	2名参加
⑫包丁研ぎ(第2回)	12月(1回)	1名参加
⑬福祉・家事援助サービスコーディネーター	2月(1回)	1名参加
⑭襖の張替え	3月(1回)	1名参加
ウ.第3ブロック主催の研修・講習		
①第3ブロック代表理事等会議 「派遣事業の現状と今後の展望」	11月(1回)	2名参加
②第3ブロック安全就業研修 「シニア世代の健康管理と介護予防」	11月(1回)	5名参加
③第3ブロック会員研修 「自転車交通安全研修」	11月(1回)	6名参加
④第3ブロック役員研修 「シルバー人材センターのデジタル化について」	1月(1回)	8名参加
エ.その他の研修・講習		
①中野区社会福祉協議会 「介護予防・生活支援サービス担い手養成講座」 (6講座)	8月～1月	17名参加 *リモート方式の受講者含む
②関東ブロックシルバー人材センター連絡協議会 「令和5年度 役員研修」	2月(1回)	2名参加

#### (4) 調査研究

- ① 他センターの先進事例等を調査し、優れた事案については当センターにも取り入れ、理事会の経営力を高めることによりセンターの円滑な運営に努めました。
- ② センターの喫緊の課題である会員増強について、一般・区民の方々のセンターに

対する認知度を把握するため、令和5年11月「なかのエコフェア2023」でセンターのテントにご来場のうち346名の方々にご協力いただきアンケート調査を実施しました。230名(66%)の方が「シルバー人材センターを知っている」と回答し、また、「どのようにしてセンターをお知りになりましたか?」との質問に対しては「なかの区報などで見たことがある」と回答した方が146名(42%)となり、改めて区報の広告効果を確認することができました。

#### 5 適正就業の取組み〔定款第4条4号及び5号事業〕

法令を遵守した適正就業対策の強化を目指し、これまでの自主点検や東京しごと財団の指導等を踏まえ、請負契約内容の確認・調査、契約書や仕様書の整備等を行うなど、適正就業の改善に取り組みました。

センターとしては、会員へ1件でも多くの就業機会を提供できるよう、お客様へ適正就業の趣旨を十分に説明し、請負契約が成立するよう努めました。

また、シルバー派遣事業についても、法令遵守及び適正就業を念頭において事業を推進しました。

#### 6 シルバー派遣事業の着実な推進に向けて〔定款第4条1号及び5号事業〕

シルバー派遣事業は、高齢者である会員の皆さんの知識や経験等をさらに生かし、請負というこれまでの会員就業の枠組みに加え、多様な就業機会を提供するための事業です。

令和6年3月末の時点では、東京58センターのうち53センターにおいて、派遣事業の実施もしくは派遣事業所が開設されています。

平成29年4月1日に、派遣事業所(東京しごと財団派遣事業所)を開設したセンターの派遣事業は7年目を迎えました。

令和5年度の派遣実績については、年間の契約件数は保育補助業務23件、書類の封入業務1件、受付事務1件、調理補助業務1件、また、センターで初となります単発派遣契約「シニアしごとEXPO2023」会場でのタブレット操作サポート及び案内業務1件を含む合計27件、就業実人員94名、契約金額は35,367,196円となり、昨年度比で4.8%減でした。

派遣業務は就業期限が5年までというルールがあります。5年満了した場合には一度、派遣就業は終了となり、6カ月間お休みした後、再び派遣就業を開始することがルール上は可能となります。ただし、就業を再開できるか否かは、その時の受注状況によります。昨年度は12名、令和5年度は9名の会員が5年ルールにより就業期限満了となり、それに伴い終了となる派遣契約があり、派遣実績の減少の要因となりました。

また、令和5年4月から、派遣就業者数が常時50名以上の事業所に義務付けられている衛生委員会を設置し、月一回の頻度で12回開催しました。この委員会では、衛生管理者及び産業医の出席を必須要件とし、派遣就業における衛生面や安全面の課題等について検討・調整し、会員の就業が適正に遂行されるよう取り組みました。

令和5年度の派遣事業は、今まで保育補助業務を中心に事業展開してきたセンターにおいて、事務系職種や単発の派遣契約など、新たな就業機会を会員に提供することができました。今後も会員の就業機会を確保するため、適正就業を念頭に置きつつ就業開拓に努めてまいります。

## 7 安全就業対策等の推進〔定款第4条4号及び5号事業〕

高齢者の就業において「安全はすべてに優先」します。安全就業対策の取り組みとその実践はとても重要です。

ここ数年、安全管理委員会では安全パトロールの回数を増やし、様々な職群から委嘱されている委員の多様な視点から就業現場を十分に確認するなど、安全就業対策を継続するとともに、「KY（危険予知）」による事故防止に力を入れてきました。

事故件数は昨年度の16件（傷害事故11件、賠償事故5件）から減少して、11件（傷害事故8件、賠償事故3件）となり、少しずつではありますが成果が現れはじめています。しかしながら、依然として転倒事故や交通事故の割合が高く、その対策が最重要課題となっています。

また、感染症の流行も落ち着きを見せていますが、高齢者の団体であることから、気を抜くことなく、引き続き会員へ感染症対策の注意喚起をするとともに、事務局が感染源とならないよう、受付の飛沫防止シート・職員の座席間のアクリル板・本部及び各分室の検温器や手指消毒液等の設置により、感染リスクの軽減及び感染症拡大防止に継続的に取り組みました。

### （1）安全就業の徹底

① 新入会員へ「安全就業の心得」及び「会員の安全就業基準」を配付しました。また、「シルバーなかの」「シルバー速報」に毎号、安全に関する記事を掲載し安全への意識を高めることに努めました。

② 安全管理委員会を年5回開催し、以前は安全管理委員会の開催月に合わせて年4回実施していた安全就業パトロールを、令和4年度から年6回、さらに令和5年度は年8回に増やし、安全管理委員による就業現場の確認と現場での安全意識の向上、一人KY活動の普及・啓発に努めました。

また、9月には東京しごと財団安全就業パトロール指導員とともに、植木・除草の2つの現場を巡回し、さらに安全管理体制についても前向きな意見をいただきました。

特に、他センターに先駆けた「一人KYカード」の作成・配付については、以前から中野区独自の積極的な取り組みであると評価されてきましたが、令和5年度はすべての職群において「一人KYカード」の作成が完了したことから、今後は実際の就業場面での積極的活用を通じて、事故防止対策に役立てていくよう期待を込めたアドバイスをいただきました。

③ 地域班・職群班会議等において、事故発生状況などをできるだけ詳細に説明し、事故に関する情報共有のもと安全意識の喚起に努めました。

### （2）事故防止対策

① 安全保護具（ヘルメットや安全ベルト）の着用徹底を図りました。

② 熱中症対策として、機関誌等を通じ炎天下や非常に暑い場所での長時間作業を避けることや、水分を十分に補給するなど、注意・喚起に努めました。

また熱中症対策として、これまでは首元を冷やすクールネックを屋外作業が多い職群を中心に配布してきましたが、令和5年度は帽子的後ろに装着して、後頭部・首元に直射日光が当たらないようにすることで熱中症を予防するネックガードを1,100枚購入し、区報配布・通学路児童見守り・植木・除草・公園清掃・自転車整理などの屋外作業中心の職群はもとより、それ以外の各職群でも希望者に配布して、センター全体として熱中症に対する注意喚起と対策に努めました。

- ③ 作業用の道具や器具等の安全点検を実施し、事故の未然防止に努めました。
- ④ 長年、事故の未然防止対策としてのKY（危険予知）を、職群班会議や安全就業パトロールを通じて周知し、普及啓発に努めてきました。令和3年度からは、より具体的なKYの実践方法として「一人KYカード」を職群ごとに順次作成し、シルバー人材センターでの就業の特徴である一人現場に合わせた取り組みを進めてきました。  
令和5年度には、全ての職群の「一人KYカード」が完成し、数年来の目標を達成しました。今後は、完成した「一人KYカード」を具体的に生かしていく段階へとステップアップしたことで、より一層、実践的な安全就業対策の推進に努めていきます。

### (3) 健康管理

- ① 生活習慣病健康診断の受診を推奨しました。
- ② 熱中症対策や虫さされ（蜂・茶毒蛾など）など、季節に応じた健康管理について、各種会議や機関誌等により周知・喚起しました。

## 8 地域班活動について〔定款第4条3号及び5号事業〕

センターは「自主・自立」「共働・共助」の基本理念に基づき、会員自らが自主的・主体的な組織運営を行い、会員同士が助け合う共働・共助を特徴とする団体です。

また、センター事業が地域社会に理解・評価され、具体的な形で地域社会に貢献することは、センターの発展のために不可欠なことです。そのため、居住単位での地域班によるクリーンキャンペーンや、道路清掃等の社会貢献活動が地域社会の理解を得る上で効果的であり、地域班の会員一人ひとりが地域班活動の意義を理解し、継続的に実践することが重要です。

令和5年度は、下記の地域班活動が実施されました。

- (1) 令和5年4月 北部ブロック（新井班も参加）「深川探訪」
- (2) 令和5年6月・11月 地域班会員懇談会
- (3) 令和5年5月・11月 クリーンキャンペーン
- (4) 令和5年11月 南部ブロック「日帰りバス旅行（北総水郷方面）」
- (5) 令和6年2月 南部ブロック「介護保険講座」

## 9 ボランティア活動状況〔定款第4条3号事業〕

- (1) クリーンキャンペーン（駅周辺等の清掃）
 

5月（1回）	71名参加
11月（1回）	102名参加
- (2) 区民サービス「初心者向けパソコン・スマホ教室」
 

4月・8月・11月・12月・1月（26回）	78名参加
-----------------------	-------
- (3) 区内公園等の花壇造り及び維持・管理（上鷺宮班）
 

原則毎週1回	4名程度で活動
--------	---------
- (4) 「東京マラソンランナー応援イベント2024」会場ボランティア
 

3月（1回）	7名参加
--------	------

## IV 公益社団法人として

センターは、社会参加の意欲ある健康な60歳以上の高齢者に対し、地域社会と連携を保ちながら知識及び経験等に応じた就業機会を確保し、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的としています。身近な地域での就業を通じ、高齢者の社会参加の場を提供するセンターの取組みが公益社団法人として認定されたものです。

令和5年度は公益社団法人として13年目の運営となりました。感染症がシルバー事業へ与える影響は年々減少しているものの、コロナ前のPR活動等の動きになかなか戻りきらず、会員数が伸び悩んでいるセンター運営にとって、昨年度に引き続き厳しい状況でありました。

ただ、新聞折込み広告によるPR等の効果があり、令和5年度末会員数は昨年度を上回り、令和6年度に向け明るい兆しとなりました。

今後も会員増強を喫緊の課題とし、同時に就業開拓にも注力しつつ、お客様や会員の様々なニーズ等に答えられるよう努めてまいります。

#### 事業報告の附属明細書

令和5年度 事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益社団法人 中野区シルバー人材センター  
会 長 岩 本 昌 夫